

普及だより

第139号 令和3年3月
茨城県 鹿行農林事務所
行方地域農業改良普及センター
行方地域農業改良推進協議会
電話 0299 (72) 0256
FAX 0299 (72) 1690

～ハウス強靱化現地研修会とハウス強靱化対策について～

ハウス強靱化現地研修会を開催しました

最大瞬間風速30m/s以上を記録した令和元年9月の台風15号により、行方地域のパイプハウスは甚大な被害を受けました。今後、同規模の大型台風に対する被害を最小限に抑えるために、茨城県では農業用ハウスの強靱化を推進しております。

その取り組みの一環として、昨年11月10日に、潮来市でトマト栽培に取り組む山本農業経営士のハウスを会場に、ハウス強靱化現地研修会を開催しました(写真1)。鹿行農林事務所企画調整部門から、ハウス強靱化に関する県の考え方や支援策、共済事業等について、行方地域農業改良普及センターから県が作成した「農業用ハウス災害被害防止マニュアル」についてそれぞれ情報提供しました。その後、足場材を活用した強靱化施工事例について、現地見学し、山本氏から、補強の目的や、工夫した点などについて説明頂きました。山本氏

のハウスは、台風15号によりハウスが真上から押しつぶされ、一棟が全壊しました。このため、強風に耐え、災害被害を防ぐハウスの強靱化が必要と考え、部材の入手・施工しやすい足場材を活用した補強に取組まれたそうです。研修会ではその後、株式会社渡辺パイプ茨城サービスセンターの寺門所長より、有効な補強方法であるタイバーの設置について、実演を交えながらご説明頂きました。参加者からは各目的のハウスに補強をする場合のアドバイス等について質問が多く出るなど、大変有意義な研修会になりました。



(写真1) 現地検討会の様子

ハウス強靱化対策について

農業用ハウスの被害を防いでいくためには、少なくとも風速36m/s程度の強風に耐えることができるよう、想定される被災パターンに応じて複数の補強方法を組み合わせ、適切に対策を進めていくことが重要です。

①風上側の肩部から屋根にかけて押しつぶされるパターン
強風がハウス側面に吹き付けた場合に発生しやすく、水平タイバーやクロスタイバーの設置、足場管等による側面の補強、ダブルアーチ構造の導入等が有効です。

②下から吹き上がるようにパイプが変形するパターン
扉等の破損等の原因で、ハウス内に風が吹き込んだ場合に発生しやすく、扉の点検補強、妻部への防風ネット展張、基礎部の強化等が有効です。

③妻面が奥行方向に倒壊するパターン
強風が、妻面から奥行方向に吹いた場合に発生しやすく、筋交い直管の追加等が有効です。

④真上から屋根が押しつぶされるパターン
施設周辺の障害物により、風速風向が変化した場合に発生し、ダブルアーチ構造の導入、アーチパイプ材の強化増設等が有効です。

「農業用ハウス災害被害防止マニュアル」およびハウス強靱化の施工法は、行方普及センター又は鹿行農林事務所のホームページに掲載されています。

「強靱化ハウス」の仕様(一例)



～台風被害防止のため農業用ハウスの強靱化を行いましょう～

普及だより

マコモ若葉パウダーの商品化について



マコモ若葉パウダーを添加した加工品

潮来市では、令和元年度より、「水郷潮来 MYSTERY プロジェクト」として、マコモ若葉を活用した商品開発を行っています。

元年度は、マコモ若葉の乾燥前処理方法や粉碎機の違いによるパウダー試作に取り組み、二年度には粒度の細かいパウダー化に成功しました。また、マコモ若葉パウダーを商品に添加した様々な加工品の試食会を開催し、「シフォンケーキ」「パウンドケーキ」「まこも寒天」「まこも茶」をレシピとしてまとめました。さらに、一般の方へ公募を行い、「まこもアイス」「まこもフォー」等の商標開発を行うとともに、新規栽培者への補助を検討しています。

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生に注意

昨年度、管内の水田でジャンボタニシの発生が確認されました。ジャンボタニシは体長が2〜7cm(写真)で田植え後から3週間の間まで、移植した苗を食害します。また、卵は濃いピンク色(写真)で稲の茎、畦畔、水路の水面の上に産み付けられます。

対策は、食害が見られた圃場では農薬による防除を行うとともに、卵を水中に落とすことで駆除できます。1〜2月に耕うんを行い、休眠したジャンボタニシを物理的に破壊するとともに、寒風にさらして越冬個体を減少させることも有効です。



卵塊(左)とジャンボタニシの成貝(右)

クロルピクリン剤の事故防止

管内では、例年3月後半からカンショ作付用のマルチ展開が始まります。その際、多くの場合土壌燻蒸剤であるクロルピクリン剤(以下「クロピク剤」)も同時に施用されますが、事故防止のため次の点に注意願います。

カンショ畑が園芸用ハウスや住宅などに隣接している場合は、ハウス所有者や住民に対してクロピク剤の作業予定を事前にお知らせし、ハウスや住宅の扉、窓を閉めてもらってください。こうした条件の畑は、ガス拡散速度の遅い気温の低い時期に作業を行うことも事故防止の対策になります。

気化したクロピク剤は空気約5.6倍重いため、特に低地にたまりやすいです。カンショ畑の下方にハウスや住宅、畜舎などがある場合は風のない時も注意が必要です。被覆が十分でない、クロピク剤のガス拡散が大きくなる恐れがあります。マルチの端がしっかりと土に埋まっているか、作業後に確認して下さい。対策のポイントは①近隣の住民へ事前連絡②高温時は避ける③低い方向に注意④しっかりと被覆です。

行方地域農業後継者クラブプロジェクト発表会

令和3年1月18日(月)行方地域農業後継者クラブプロジェクト発表会を開催しました。当日は、行方地域の農業後継者クラブ「ミラクルFRICK」の高橋勇希氏と新堀勝利氏が自身の取り組んだプロジェクト活動について発表しました。発表後は、行方地域の農業三士の代表者から、それぞれの活動に対する助言をいただき、来年度の活動につながる発表会となりました。

新型コロナウイルスへの対応

公益社団法人大日本農会では、農業者等に新型コロナウイルス感染症

の患者が発生した時に、保健所と連携して、感染拡大防止を前提として、業務継続を図る際の基本的なポイントをまとめ公表していますので、ご利用下さい。

「農業関係者における新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的なガイドラインについて」
<http://www.dainihon-noukai.jp/news01/2717/>